

この戯曲、どう読む？

—アーティストとひらくQ『キティ』

ロームシアター京都が創作した現代演劇作品、市原佐都子／Q『キティ』の上演に先立ち、本作の戯曲を手がかりに、異なる分野で活動するアーティスト4名とともに語り合うトーク型ワークショップを開催します。社会における不可触なタブーや性をめぐる矛盾を問う本作に、参加者それぞれの立場・視点からの感想をアーティストやほかの参加者と交換することで、実際の上演がより深く感じられるかもしれません。

戯曲の「正解を探す」ことを目的とせず、それぞれの立場や感覚からどのように読みが立ち上がるのか、そのズレや揺らぎを共有することに重きを置きます。本企画では、「かわいい」という言葉がなぜ不穏さや緊張を帯びるのかという点に触れながら、身体やジェンダー、家父長制や性差別、消費社会、資本主義といった現代社会の構造についても接続していきます。観客が上演に向けて複数の視点を携えられる状態を目指し、作品を解説するのではなく、言葉をめぐる思考の往復そのものを楽しむ時間として、観劇体験をひらく契機となる場をつくります。



初演：ロームシアター京都 レパトリーの創造（2025年2月@ロームシアター京都 ノースホール）
撮影：中谷利明

登壇者：新垣七奈（演出家）、HAYATO MACHIDA（画家）、
ひがれお（現代アーティスト）、福地リコ（映画制作者）

ファシリテーター：石垣綾音

9/22
[火・祝]

14:00-16:00

那覇文化芸術劇場なは一と 小スタジオ



詳細・お申込こちら

料金：無料（事前予約制） 定員：20名程度 対象年齢：13歳以上

申込方法：オンラインチケットサービス（<https://www.nahart.jp/ticket/>）よりお申込みください。

申込に際しての注意：

- ・託児サービスのご利用が可能です。※託児サービスの利用は、WEBサイトをご確認ください。
- ・当日はグランドルール（https://www.nahart.jp/userfiles/files/0922groundrules_3.pdf）に従いご参加ください。
- ・当日の様子は撮影（写真）し、なは一とのホームページ・ソーシャルメディアへの掲載など、広報活動や市の事業で使用する場合があります。
- ・会場内には靴を脱いでお入りいただきます。

主催：那覇市 企画制作：那覇文化芸術劇場なは一と、ヨルベ

助成：一般財団法人地域創造「地域創造連携プログラム」連携館：豊岡演劇祭、北九州芸術劇場、那覇文化芸術劇場なは一と

プロフィール

新垣七奈 あらかき・なな（演出家）

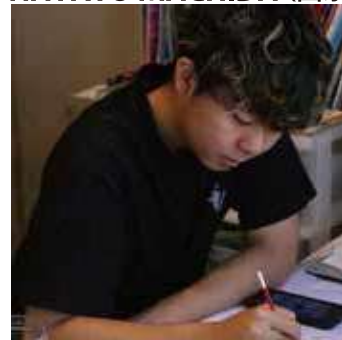


沖縄県出身。演劇ユニット多たら主宰。高校から演劇を始め、2016年に演劇ユニット多たらを結成。これまでのユニット公演すべての作品の演出を行う。24年江原河畔劇場で開催された演劇人コンクール2024で奨励賞を受賞し、翌年には同コンクールにて優秀演出家賞を受賞。那覇文化芸術劇場なはと、国際芸術祭あいち2025の共同製作によるAKNプロジェクト 喜劇『人類館』（2025年新演出版）に共同演出として参加。俳優として外部作品に多数出演。21年神里雄大が演出した『琉球怪談』（原作：小河原猛）、23年なはとプロデュースによる出会いシリーズ『声』（原作：ジャン・コクトー、演出：和田ながら）に出演している。



豊岡演劇祭2025フリンジショーケース『駄込み訴えver.ウチら♡』撮影：脇田友

HAYATO MACHIDA（画家）



1995年 沖縄生まれ。沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科環境造形専攻絵画専修在籍。絵画制作において、社会的・政治的に対立しうる価値観を身の回りに存在するモチーフをメタファーに選ぶ。それらを画面上で直接的な衝突を避けつつ共存させることで、ジェンダーや出自といった自己に関わる主題を再考し、現実と理想の関係性を問い直すことを試みている。2018年「ターナーアワード2018」未来賞。主な個展に2025年「Sugarcoatthe Crisis」Sugarcane Room Gallery。主なグループ展に2026年「VOCA展2026 現代美術の展望」。2024年「光州ビエンナーレ30周年記念特別展」。光州市立美術館（韓国）。2024年「互いに織り成す物語」佐喜真美術館（沖縄）。



「Sugarcoating the Echoes」

ひがれお（アーティスト）



1995年沖縄県出身、同地在住。沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科修了。土産品や手工芸品のリサーチを手がかりに、日常に潜む政治性や過去の痕跡をたどる作品を制作している。切り絵や映像、インスタレーションを用いて、個人と土地、生活と歴史が交錯する場のありようを描く。栄町共同書店運営メンバー。

【個展】

2025「ひがれおの琉球人形あつめ」（gallery rougheryet / 沖縄）

2019「ハロウィーンの子供たち」（Arts Tropical / 沖縄）

【主なグループ展】

2026「SHOWCASE vol.3 : Kyushu / Okinawa by ArtSticker」（アートかビーフンか白厨 / 東京）、「琉球人形あつめ in 内地 アーティストユンタク」（さわさわ / 東京）

2025「六本木クロッシング 2025 展 時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」（森美術館 / 東京）



やいまぬあいなー行列人形とう琉球人形、私（わん）
八重山の花嫁行列人形と琉球人形、私

福地リコ ふくち・りこ（映画制作者・ライター）



1993年、沖縄県恩納村生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻にて映画監督・映画批評家の筒井武文氏に師事。現在は沖縄県内外にて映画監督、ライターとして活動。主な監督作に『BOUNDARIES』（第44回大阪アジア国際映画祭上映）、『Childhood's end』（KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2022にて上映）など。プロデューサーを務めた韓国長編映画『Okinawa Blue Note』（監督：チョ・ソンギョ / 2025年）は韓国国内外にて上映およびAmazonprimeにて配信。2023年に第一子を出産し、子育てをしながら映画制作を行う。沖縄県内で映画上映や映画史勉強会を行う「AFTERSCREEN OKINAWA」共同代表。



監督した新作映画より抜粋

石垣綾音 いしがき・あやね（合同会社みるぶん）



1990年生まれ、那覇市出身。まちづくりファシリテーター。琉球大学で社会学、ハワイ大学大学院で都市計画（Urban and Regional Planning）を学んだ後、ハワイ現地の都市計画コンサルで働く。帰国後、県内の建築コンサルに入社。2019年に独立し、「人と土地をつなぐ、コミュニティをエンパワメントする」をモットーに、県内各分野の個人や団体とコミュニティと場づくりに関する活動を行なう。ファシリテーションを軸として平和教育やまちづくりのワークショッププログラムを提供する「合同会社みるぶん」を2026年に設立。「沖縄のまちは交通が変わらないと変わらない」という思いから、近年は交通関係のプロジェクトに関わる事も多い。最近の関心は「ケア」とまちづくり、ジェンダーと交通、まちづくりの話もたまにします。

ヨルベ

写真家、美術家、映画監督、小説家など、多様な表現者を中心に活動する。専門性と創造力を活かし、文化芸術に関わるトークイベント、リサーチ、講座やワークショップを企画・運営。発表の場を広げるだけでなく、社会の中にひそむ課題を可視化し、表現を通じ考えるきっかけをつくることを目指し活動している。アーティストや研究者、市民が垣根を越え、集まり、語り合い、学び合う「居場所（ヨルベ）」をひらくことで、文化芸術が社会と共に育っていく場を築いている。これまでに、アートと社会課題を結びつけるトークシリーズ、労働環境改善に関する調査や報告、ジェンダーや地域文化をテーマとした講座など、時代に呼応する多彩なプログラムを実施。さまざまな人々の知恵と感性を結び、持続可能な文化のあり方を探っている。

<https://yorubeokinawa.myportfolio.com/>